

BRAD DAVIS-FRANCO NERO-JEANNE MOREAU
IN

誰もが自分の愛するものをだめにする。

ファスビンダーの
ケレル

原作・ジャン・ジュネ「ブレストの乱暴者」
脚本・監督・ライナー・ウェルナー・ファスビンダー
美術・ロルフ・ツェーエト/バウア
製作・フランツ・フィルム(西独) / アルバトロス・プロ(西独) / ゴーモン(仏)
出演・ケレル=ブラット・デーヴィス、リシアヌ=ジャンヌ・モロー
ノ=ギュンター・カウフマン、セフロン=フランコ・ネロ
ロペール、ジル=ハンノ・ベッシュル、ロガード=ローラン・マレ
配給・人力飛行機舎 / テラコーポレーション

RAINER WERNER FASSBINDER

QUERELLE

●ジャンヌ・モローが歌う 主題歌“誰もが自分の 愛するものを作り出す”

ジャンヌ・モロー演じる壳宿の女主人は、オウム返しにかの有名なオスカー・ワイルド、アルフレッド・ヒッチコックの科白を歌う。「誰もが自分の愛するものを作り出す。」ワイルドが監獄の中で書いたこの科白が、この映画の究極の実体を言いあてているようだ。



●原作はジャン・ジュネ の「ブレストの乱暴者」

ジャン・ジュネ（1910～1986）ほど、世の驚愕と憤激をかった20世紀の作家はないだろう。1937年から1943年の間に、彼は13回も有罪判決を受け、5ヶ国から国外追放を申しわたされている。1948年に終身禁固刑になるとこを、サルトル、コクトー、ピカソの嘆願により、大統領特赦を受けて出獄できた。サルトルは1952年のジュネ論においてジュネを聖人とまで崇めている。

ジュネの4番目の小説「ブレストの乱暴者」は、第2次世界大戦直後に書かれたものである。ホモセクシュアル、殺人、裏切り、死の願望などが主要モチーフである。この小説は、ジュネの最初のドイツ語訳として、1955年に出版されたが、発禁処分され、1966年に再出版される際には、この本を購入する者は、次の義務を負わねばならなかった。「鍵をかけて保管すること、青少年に見せないこと、個人的にも営業的にも他人に貸さないこと」。



●オスカー賞受賞者 ロルフ・ツェーエトバウアー の華麗なる美術!!

この映画は終始スタジオ内で撮影されている。1972年「キャバレー」でオスカー賞受賞に輝くロルフ・ツェーエトバウアーは、超現実的な港町風景をスタジオ内につくりあげ、人工的で疎外された雰囲気を創造した。心憎いまでの照明と共に創り出されたこの空間を駆使して、ファスピンドー監督は、出来事の主觀性と入り組んだ複雑さを、決して沈むことのない夕陽の中で明確に理解しやすく、提示することに成功している。

●「リリー・マルレーン」の ファスピンドー監督の遺作

『ニュー・ジャーマン・シネマ』の若き旗手として、V・シュレンドルフ、ヴィム・ヴァンダースラと共に西ドイツ映画の質の高さを世界に知らしめたライナー・ウェルナー・ファスピンドー監督は1946年3月31日生まれ。ギムナジウムを卒業後、ミュンヘンの私立俳優学校に学び、ここで知り合った女優ハンナ・シグラと共に『アクチオン・テアター（行動劇場）』に入団。その後'68年に、10人の同志を率いて『アンチ・テアター（反劇場）』を結成。映画監督としてのデビュー作は'69年の『愛は死よりも冷めたい』。2作目の『出かせぎ外人』で数々の映画賞を受けるに及び一躍有名になった、映画以外にも、演劇、放送劇、テレビ映画などをエネルギー的に制作し、その多作ぶりは『煙草を吸うような早撮り』と評される。私生活でも話題に事欠かず、ハンナ・シグラとの愛人関係の最中に、ホモ宣言をしてまわりをアッと言わせた。

『ヴェロニカ・フォスのあこがれ』はベルリン映画祭金賞受賞。「マリア・ブラウンの結婚」「リリー・マルレーン」「自由の代償」「季節を売る男」等が日本で公開されている。

1982年6月10日、36歳にして急逝。
この「ケレル」が遺作となる。

●「ミッドナイト・エクスプレス」のプラッド・デーヴィスがケレル

テレビ映画「ルーツ」で登場し、1978年にラン・バーカー監督の『ミッドナイト・エクスプレス』で全世界から注目される。その後、「炎のランナー」等にも出演している。近頃ではNHKで放映されたテレビ映画『警察署長』での演技が話題になっている。



●セーラー服ってのは いつも色っぽい!!

大きな赤いポンボリのついた白いセーラー帽をかぶったケレル（プラッド・デーヴィス）が、とても色っぽい。裸もいいけど、男の着るセーラー服ってのも、色っぽいのだ。

セーラー服が女子学生だけのものではないこ

とに改めて注目せざるを得なくなってしまう

映画なのである。



●あらすじ

駆逐艦「復讐号」がブレスト港に入港したところから、始まる。淋しい北の海、夕陽にそまつた波止場、城壁の上の淫売宿「ラ・フェリア」が舞台だ。艦上では上官のセブロンが、若くたくましいケレルの肉体を惹いて、淫売宿の主人ノゾと女主人リジアヌもケレルの美しさに魅せられてしまう。悪の天使ケレルはここで性と暴力の快楽を覚える。仲間のヴィック組んで、麻薬密輸をノゾとその相棒マリオの手引きで成功させるが、ケレルは口封じの為、ヴィックを殺す。女主人リジアヌのヒモになっているケレルの兄ローベルをつくりの建設労働者ジルは、若いローガーに恋していたが、ケレルの策略により、ヴィック殺しの犯人として逮捕される。悪とエロスと死の破壊的なカレイドスコープ。破滅への誘惑。全てが、いつまでも沈まぬ夕陽に照らされたまま、艦はケレルとセブロンを乗せて錨をあけることになる……。



ファスピンドーのケレル●原題“QUERELLE” 1982年度作品 独仏合作 テクニカラー35ミリ シネマスコープ ドルビー・ステレオ / 上映時間106分 フランス語版 日本語字幕付 配給=人力飛行機舎 デラ・コーポレーション

’88年3月より待望のロードショー

特別鑑賞券¥1,200円 発売中
(当日¥1,500円 均一の処)

シネマスクエア
とうきゅう

新宿ミラノ座横3F ☎232-9274

全自由席定員制●入替制

※満席および上映中の入場はできません。

連日 12:00 2:20 4:40 7:00

毎金・土曜はレイジー実施 PM9:10